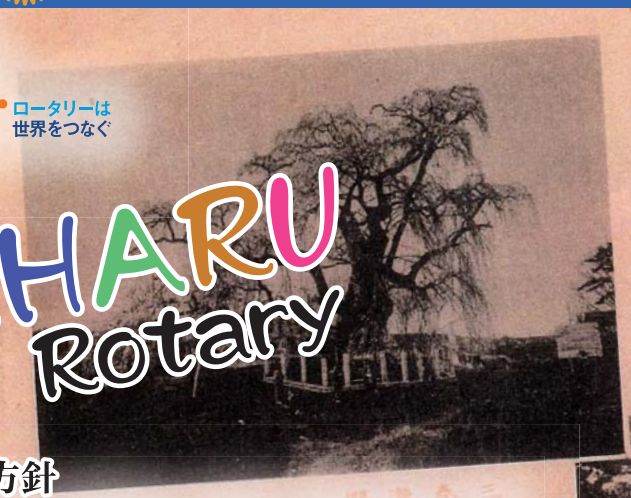
ロータリーは
世界をつなぐ

MIHARU Rotary

クラブ方針
2019-20 三春ロータリークラブ テーマ
エンジョイ ロータリー



大正時代の三春滝桜（三春名所案内図より）

Program
1. 開会点鐘
2. ロータリーソング「奉仕の理想」
3. 四つのテストの唱和
4. ゲスト紹介
・佐藤 幸司　様
（2530地区学友・国際開発センター勤務）
・鈴木 美恵子　様
（学友・平和フェローシップ委員会委員長）
5. 会長挨拶
6. 幹事報告
7. 各委員会報告
8. 講　　和
佐藤 幸司　様
（2530地区学友・国際開発センター勤務）
9. 閉会点鐘

# 平和と紛争予防・紛争解決月間プログラム例会

**令和2年2月20日（木）12:30～ 場所：割烹 八文字屋**

## 会長挨拶　大内 富雄

皆様こんにちは。 先日、幕田家の葬儀告別式打ち合わせに出席してまいりました。三春ロータリークラブは、帳場の依頼を受けてまいりました。4名ほど幹事より、指名依頼させて戴きますのでご協力をお願い致します。今日の例会は、**平和と紛争予防・紛争解決月間プログラム**、お客様に2530地区学友・フェローシップ委員長の鈴木美恵子様、本日の講師に、学友そして国際開発センターにお勤めであります佐藤幸司様をお迎えしての例会であります。佐藤先生とのご縁は、三瓶一壽社会・国際奉仕委員長そして、鈴木美恵子学友・フェローシップ委員長のご紹介で、実現させて戴くことが出来ました。鈴木委員長・佐藤先生、お二人の来訪を会員一同心待ちにしておりました。本日はどうぞ宜しくお願い致します。

ここの所、コロナウイルスの影響がアチラコチラで出ている様子ですが、三春ロータリークラブでも3月25日に春日部西ロータリークラブとの屋形船を利用した花見の合同例会を企画いたしておりましたが、春日部西ロータリークラブ大熊会長と相談をさせて戴き、苦渋の選択ではありましたが、今回は中止と致しましたのでご了承下されます様お願い致します。

話題は変わりますが、ある事がきっかけでここ数年来の災害について振り返える機会がありました。思い出しますと色々と感慨深いものがあります。25年前の阪神淡路大震災、そして10年前のハイチ地震、2011年の東日本大震災、最近のコロナウイルスと、地球上の異たる処で災害だらけ、また、色々な事が重なり、日本いや世界中が、災害と不景気に晒され続けて居る様な思いであります。災害は景気に直結しいたるところに影響を及ぼしてしまいます。**庚子の年は不景気**となる様な事を1月の例会でもお話をさせて戴きましたが、昔の人の云う事は、まんざらではないと感じた次第であります。その**子年の不景気を解消出来る**かもしれない、そんな話をご紹介いたします。

それは、**ほめる**という言葉であります。ある方のお話を聞く機会があり、ほんの一部をご紹介します。人間は**不景気になると不機嫌となり、不機嫌になると笑顔「スマイル」が消えて**しまいます。その逆に**「マイナスからプラス」へ行くと、嬉しがる**のだとも云われます。つまり、叱られたり、愚痴られたりすると、マイナスとなり、**ほめられるとプラスへ転じる**そうです。又、いくら**「ほめても、ほめ返してくれない」と、自分だけが損**をしたような気になり落ち込んでしまうそうであります。皆さんは、人から言ってもらいたい**「ほめ言葉」**は何でしょうか？　チョット考えてみては如何でしょうか、ふつう「ほめ言葉」といいますと、素敵なところを認めてくれる、それは自分以外の人が云う言葉のことですが、自分自身がこんな風に言ってもらうと、嬉しいって事もあると思います。

**「ほめ言葉」を「言ってもらえたら嬉しくなる言葉」**と思い直し、皆様の会社でもチョット考えては如何でしょうか?きっと社員の方々へ**「ほめ言葉」**を言うことであなたは、「ほめ言葉名人」になれるかもしれません。みんなが**「ほめ言葉」**名人になったら、みんなの良い処がどんどん伸びて行く、そんな思いが致します。実行できれば業績の倍増はまちがいなし、輝かしい未来はすぐそこでありますので、頑張って戴きたい処であります。不況の世の中であればこそ、せめて1年間に1日だけでも、「ほめ言葉」の日を定め実践しては如何でしょうか、必ず世の中に笑顔が戻り、この世の不景気という嵐から三春RC会員皆様が、互いにいち早く抜け出せる様な気がいたします。ぜひ頑張って戴きたいものであります。　私も残された任期の半年の間、皆様を**「ほめて」、「ほめて」、ほめぬいて**スマイルボックスの増額に努めて参りたいと思います。念ずれば花ひらくであります。どうか皆様方に、**「ほめ言葉」を贈る人**でいてほしいと念じながらお話をさせて戴きました。ところで今日はこのあと平和と紛争予防・紛争解決月間プログラムとなっております。自分自身にそして**世界中に「ほめ言葉」を贈り、紛争解決に繋がれば**と信じ乍、会長挨拶とさせて戴きます。ご静聴ありがとうございました。

## 幹事報告　市川 宏一

**1. 幕田家葬儀日程打合せ報告**

三春RCは帳場の一部を担当しますのでPC入力可能な方4名お願いします。
会員の町内団体へ重複加入となるため、人選は幹事より指名いたします。

**1）通夜　2月27日（木）　18時00分～　　場所　菊川屋斎苑**

お手伝い集合時間　16時00分　　集合場所　旧三春中学校跡地

**2）告別式　2月28日（金）　13時00分～　場所　菊川屋斎苑**

お手伝い集合時間　10時00分　　集合場所　旧三春中学校跡地
三春中学校跡地からは送迎バスが出ますのでご利用ください。
その他お手伝いを戴ける方は、お申し出をお願い致します。

**2.　2月29日（土）県中分区インターシティーミーティング**

●登録13時30分　場所：常葉町
12名出席　集合時間　12時30分集合出発　タクシー分乗で往きます。

**3. 3月12日の例会に春日部西RCより5名の来訪があります。**

●大熊会長、田中幹事、田中様、佐々木様、金子様

## ゲスト紹介　三瓶　一壽さん

本日はゲストとして地区より鈴木美恵子様とゲストスピーカーの佐藤幸司様です。

・鈴木様は福島グローバルロータリークラブ所属で、現在地区の「学友・フェローシップ」委員会委員長を務めております。佐藤様を紹介いただきました。

・次にゲストスピーカーを紹介いたします。
佐藤幸司様です。
佐藤様は現在、「株式会社国際開発センター」に勤務されているロータリアンです。福島市出身でロータリーの交換留学制度を利用して、インドのデリー大学で経済学の学位を取られたそうです。現在はネパールのロータリー会員でもあり、グローバルに主に開発途上国の教育等の支援を業務とされ、現在はエジプトの教育支援を行っているそうです。
本日は主にパレスチナにおける教育の現状とそこから見えてくる、本日のテーマでもある平和と紛争予防・紛争解決についてのお話を頂けます。

＜テーマと趣旨＞

■　テーマ:平和と紛争予防･紛争解決

本日は地区学友・フェローシップ委員会委員長の鈴木美恵子様（福島グローバルRC）の仲介で佐藤幸司様をお呼びすることができました。

■　趣 旨

昨年末(12/4)に中村哲氏がアフガニスタン東部ジャララバードで武装勢力による襲撃を受けてなくなるという衝撃の事件が発生。。。などの混迷した世界各地で苦しめられるのは、やはり子供などの弱者市民。また、世界各地に広がる難民問題。このような混沌とした世界から紛争は無くなるのか。世界の目は今どこを見ているのか。

一方、フランシスコ･ローマ教皇が昨年11月、ヨハネ･パウロ2世依頼38年ぶりに来日され、長崎、広島等の爆心地から世界平和を祈り、発信された。そしてある写真を世界に送られた。「焼き場に立つ少年」である。

本日、皆様のお手元にある1枚の写真です。
この経緯とフォトジャーナリスト「ジョー・オダネル」氏の言葉も差し上げますので後ほどじっくりとお読みください。（P6.P7に掲載）

本日は学友、国際開発センターに勤務されております佐藤幸司様に、本日のテーマについての卓話を頂きます。パレスチナ、エジプトや中東などの現状とそこで、我々ロータリアンは何ができるのか。何をやるべきなのか。
すべては、未来を繋ぐ子供たちの為に。
（このことは三春RCの創立50周年テーマでもあります。）
このような話題をお話しいただけると思います。
佐藤様、よろしくお願いします。

## 講　話　　佐藤 幸司 様 （2530地区学友・国際開発センター勤務）

佐藤様はスライド画像を含め講話をいただきました。

皆さんそれぞれに、いろいろな感想を持たれたと思います。本日の卓話は世界でも最も混迷の続くパレスチナとイスラエルを舞台としたお話でした。ロータリーでは紛争解決と言いますが、大変困難であるのは事実。でも、あるNGO団体の試みでは、イスラエルの子供たちをパレスチナに招き入れて子供たちにその現状を知ってもらう活動をしているとのこと。
長い目で見ると、紛争解決の糸口になりえる、「未来に向けての相互理解と対話の始まり」です。
ちょうど我々三春ロータリーの創立50周年事業のテーマとも結びつく良い活動であると思いました。

# 佐藤 幸司様講話のスライド集

※動画は YouTube 三春ロータリーチャンネルで限定公開

テーマ：平和と紛争予防・紛争解決

2020年2月20日
三春RC例会
発表者：佐藤幸司

## 名前：佐藤 幸司

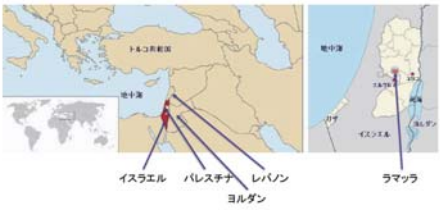
- 1994年晩秋 2530地区（福島県）ロータリ財団奨学生としてインドのデリー大学大学院（経済学修士）に留学
- 職業は、政府開発援助（ODA）の開発コンサルタント
- 国際協力機構（JICA）が途上国政府と合意したプロジェクトを実際に実施する業務
- これまで、約33カ国ほどの途上国で主に教育開発や社会開発プロジェクトに従事
- 1年のうち7～8ヶ月は海外
- 現在、エジプトの教育プロジェクトに従事
- 2016年11月～2018年10月までパレスチナ教育プロジェクトに従事

1

## パレスチナ自治区

2

## パレスチナ自治区




4

## 西岸地区とガザ地区

- 西岸地区の大きさは、秋田県のほぼ半分（約300万人/97万人）
- ガザ地区の大きさは、郡山市の半分弱（約194万人/33.5万人）
- パレスチナ難民（約587万人）
- 言葉はアラビア語
- 人々の92%はイスラム教、7%はキリスト教、1%がその他の宗教
- エルサレムは、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の聖地があるところ
- エルサレムは、パレスチナとイスラエルのどちらの国に属するかでずっと争ってきている

6

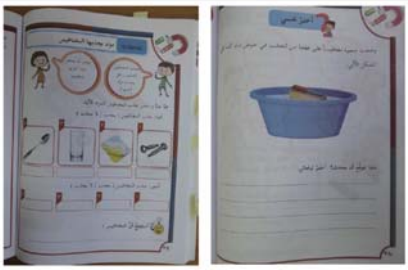
## ラマッラの町とその近く

11

## ラマッラの学校

7

## パレスチナの教科書



7

## パレスチナとイスラエルの問題

12

## パレスチナとイスラエルの領土問題

12

## パレスチナとイスラエルの問題

争いは止まらない

12

## 紛争解決

- 当該国内の世論や民意、政治家たちの考え、一国のリーダーが掲げる政策に関わる。
- その国と利害関係がある関係国（反体制組織）に対する政策や方針に深く関わる。
- 経済的利害関係が深く関わる。
- 和平を働きかける第三国（第三者）が必要。そして、当事者同士の地道な対話が必要。

＊国連の影響力や役割は日に日に弱くなっている。

11

## 私が考える紛争予防

- 相手の国の歴史や文化、宗教を正しく理解することから始まる。
- 紛争が起こっている国、貧困国、紛争地域に日頃から興味を持つ。
- 興味を持つところはテロや貧困だけでなく、その国、地域の素晴らしいところ、日本が持っていない素敵なところ。
- 「かわいそう」から始まるのではなく、「おもしろいね、すごいね、もっと教えて」から始まる。

12

ご清聴ありがとうございました

13

・佐藤 幸司　様（2530地区学友・国際開発センター勤務）

・鈴木 美恵子　様（学友・平和フェローシップ委員会委員長）

# Smile Box スマイルボックス

●大内 富雄さん
佐藤様、本日はありがとうございます。
鈴木様、ようこそ三春ロータリークラブへ。本日はよろしくお願いします。

●市川 宏一さん
佐藤様、鈴木様、本日はありがとうございます。お二人の来訪を祝してスマイルします。

●三條 安國さん
来訪ご苦労様です。お話楽しみにしています。

●福原 義守さん
佐藤幸司様と鈴木美恵子様の来訪に感謝してスマイルします。

●川又 暉之さん
佐藤幸司様と鈴木美恵子様のご来訪に感謝して。

●増子 博保さん
佐藤様、鈴木様ようこそ三春ロータリークラブへおいで下さいました。
お話楽しみにしています。

●橋本 国春さん
皆さんこんにちは。本日の例会に佐藤さん、鈴木さんご来訪有難うございます。
ご来訪を祝してスマイルします。

●三瓶 一壽さん
ゲストの鈴木様、佐藤様、本日は楽しみにしてました。よろしくお願いします。

●佐久間 英一さん
ゲストの鈴木様、佐藤様、本日大変お世話様です。ありがとうございます。

●石川 和広さん
ゲストの鈴木様、佐藤様をお迎えして。

●山口　進さん
ご来訪ありがとうございました。お話し楽しみにしています。宜しくお願いします。

●佐久間 四郎さん
佐藤様、鈴木様のご来訪を歓迎してスマイルします。ご講話楽しみにしております。

**本日も多くのスマイルありがとうございました。　計 17,000 円**

# 『焼き場に立つ少年』の写真

**報道写真家 ジョー・オダネル撮影　「焼き場に立つ少年」　（1945 年長崎の爆心地にて）**

佐世保から長崎に入った私は、小高い丘の上から下を眺めていました。すると、白いマスクをかけた男達が目に入りました。男達は、60 センチ程の深さにえぐった穴のそばで、作業をしていました。荷車に山積みにした死体を、石灰の燃える穴の中に、次々と入れていたのです。

10 歳ぐらいの少年が、歩いてくるのが目に留まりました。おんぶひもをたすきにかけて、幼子を背中に背負っています。弟や妹をおんぶしたまま、広っぱで遊んでいる子供の姿は、当時の日本でよく目にする光景でした。しかし、この少年の様子は、はっきりと違っています。重大な目的を持ってこの焼き場にやってきたという、強い意志が感じられました。しかも裸足です。少年は、焼き場のふちまで来ると、硬い表情で、目を凝らして立ち尽くしています。背中の赤ん坊は、ぐっすり眠っているのか、首を後ろにのけぞらせたままです。

少年は焼き場のふちに、5 分か 10 分、立っていたでしょうか。白いマスクの男達がおもむろに近づき、ゆっくりとおんぶひもを解き始めました。この時私は、背中の幼子が既に死んでいる事に、初めて気付いたのです。男達は、幼子の手と足を持つと、ゆっくりと葬るように、焼き場の熱い灰の上に横たえました。

まず幼い肉体が火に溶ける、ジューという音がしました。それから、まばゆい程の炎が、さっと舞い立ちました。真っ赤な夕日のような炎は、直立不動の少年のまだあどけない頬を、赤く照らしました。その時です。炎を食い入るように見つめる少年の唇に、血がにじんでいるのに気が付いたのは。少年が、あまりきつく噛み締めている為、唇の血は流れる事もなく、ただ少年の下唇に、赤くにじんでいました。

夕日のような炎が静まると、少年はくるりときびすを返し、沈黙のまま、焼き場を去っていきました。

# ジョー・オダネルの言葉

「グラウンド・ゼロ」と呼ぶ爆心地。

自分が地球に立っているとは思えないほどの破壊力だった。眉も鼻も耳もなかった。顔と言える原型はなく、肉も塊だった。

この世のものとは思えないものを見た。傷ついた人々を撮影している内に日本人に持っていた憎しみが消えていった。憎しみから哀れみに変わった。なぜ人間が同じ人間にこんな恐ろしいことをしてしまったのか。

誤解しないでほしい。私はアメリカ人だ。アメリカを愛しているし、国のために戦った。しかし、母国の過ちをなかった事にできなかった。退役軍人は私のことを理解してくれないだろう。私は死の灰の上を歩き、この目で惨状を見たのだ。確かに日本軍は中国や韓国に対してひどい事をした。しかし、あの小さな子供たちが何かしただろうか。戦争に勝つ為に、本当に彼らの母親を殺す必要があっただろうか。1945 年、あの原爆は、やはり間違っていた。それは 100 年たっても間違いであり続ける。絶対に間違っている、絶対に。歴史は繰り返すというが、繰り返してはいけない歴史もあるはずだ。

たとえ小さな石であっても波紋は広がっていく。誰かが続いてくれれば波紋はさらに広がっていく。そしていつか誰もが平和を実感できる日が来ると信じる。